

# 日本メンテナンス工業会 会報

Japan Association of Maintenance and Service Contractors

通巻

第102号

Vol. 29, No. 2  
2019.1

Maintenances  
for the Future

世界をメンテナンスが  
支えています

日本メンテナンス工業会は、  
メンテナンス・サービス企業の同業者団体として  
1990年に設立され、総合、機械、電気、計装など  
各分野の信頼できる企業が会員です。

## JAMSEC News

日本メンテナンス工業会 平成31年賀詞交歓会開催される

## 特別記事

「メンテナンス・レジリエンスTOKYO 2018」結果報告

掲載企業

旭化成エンジニアリング株式会社／株式会社中部プラントサービス／株式会社高田工業所／  
日鉄住金テックスエンジニアリング株式会社／富士電機株式会社／株式会社明電エンジニアリング／  
横河電機株式会社／横河ソリューションサービス株式会社／富士ファーマナイト株式会社／  
株式会社神鋼エンジニアリング&メンテナンス／株式会社ウィズソル／株式会社杉孝／  
日本工業検査株式会社

## 特集・プラント業界で活躍するリケジョ

配管プラントエンジニア～女性らしさを強みに～ 千代田工商株式会社

発行：日本メンテナンス工業会

## 目 次

[巻頭言]		
変化への対応	倉田 一郎	1
[JAMSEC News]		
日本メンテナンス工業会 平成31年賀詞交歓会開催される		2
会員各社の動静		7
[特別記事]		
「メンテナンス・レジリエンスTOKYO2018」結果報告		8
AECが拓く、“輝くIoT”	旭化成エンジニアリング株式会社	10
防食資材（マグネラップ）による鋼構造物延命化のご紹介	株式会社中部プラントサービス	15
お客様に最適なメンテナンスをご提供するために	株式会社高田工業所	20
最新の技術を現場で活用した実例を多数ご紹介	日鉄住金テックスエンジ株式会社	24
現場力でお客様設備の安全・安心を支えます	富士電機株式会社	30
明電グループのワンストップサービス（診断サービス）	株式会社明電エンジニアリング	34
Industrial IoTが切り拓く設備管理の未来～ Innovation from Digital Transformation ～	横河電機株式会社／横河ソリューションサービス株式会社	38
プラント設備を止めない補修技術について	富士ファーマナイト株式会社	42
「設備保全管理」と「IoT」でおお客様の設備のメンテナンスを楽に！	株式会社神鋼エンジニアリング&メンテナンス	45
WITHSOL発 配管検査のご提案	株式会社ウィズソル	48
多様性のある手摺先行型足場「アルパトロス」でプラントメンテナンスの安全と効率に貢献	株式会社杉孝	53
社会インフラ維持管理のための検査・計測技術の紹介	日本工業検査株式会社	56
[随筆]		
会社人生を振り返って	旭国際テクネイオン株式会社	宮脇 明 60
[調査統計]		
会員企業概要（1年調査：2017年度データ）		62
長時間労働アンケート結果	調査統計委員会	64
[事業報告]		
働き方改革関連法について	法令・規格委員会	70
[見学会報告]		
JFEプラントエンジ株式会社 安全工事体感訓練センター 見学・研修会	株式会社中部プラントサービス	蒔山 優 74
[ものづくり・メンテナンス余話]		
日本メンテナンス工業会を振り返ってみて	新興プランテック株式会社	中澤 信雄 76
[Coffee Break]		
テニスをもたらす豊かな人生	アズビル株式会社	福嶺 博一 78
[特集・プラント業界で活躍するリケジョ]		
配管プラントエンジニア～女性らしさを強みに～	千代田工商株式会社	平船 由佳 80 真島 彌恵
[会員会社紹介]		
三井E&Sプラントエンジニアリング株式会社／アズビル株式会社／ 日揮プラントイノベーション株式会社／旭国際テクネイオン株式会社／田辺工業株式会社／ JFEエンジニアリング株式会社／山九プラントテクノ株式会社		83
[随筆]		
プロジェクトマネジメントの国際規格で世界観を変えてみよう！	新興プランテック株式会社	榎本 徹 87
[事務局より]		
西日本工業大学での連携講座の開講 ほか		88
日本メンテナンス工業会 頒布資料申込書		90
日本メンテナンス工業会 会員名簿		91

## ■ 巻頭言 ■



## 変化への対応

倉田 一郎  
JX エンジニアリング株式会社  
代表取締役社長

皆様、新年明けましておめでとうございます。  
今年元号「平成」最後の年であり、また新元号の幕開けとなる年でもあります。感慨と期待を胸に新年を迎えられた方も多数いらっしゃるのではないでしょうか。

昨年を振り返りますと、冬の北陸地方の豪雪に始まり、通例となった全国的な酷暑、地震、豪雨水害、台風など激しい自然災害が日本各地を襲い、多くの被害とインフラ破損に伴う二次被害が生じたことが強烈な記憶として残ります。現在もまだ不自由な生活を強いられていらっしゃる多くの被災者の皆様には、紙面をお借りし心よりお見舞い申し上げます。

そのような中、スポーツ界に目を転ざると、昨年は、平昌冬季五輪やジャカルタ・アジア大会で日本選手団はメダル量産の大活躍を見せました。また、サッカーワールドカップや卓球、テニス等々さまざまな分野でも日本選手の躍進が目に見えられました。それだけに、この合間を縫って、明るい話題を霧消させるような淀んだ重い空気がいくつかの競技団体から噴出したのは残念でなりません。暴力行為や各種のハラスメント行為は言語道断ですが、それは別として、問題が次々に明るみに出る背景には豊かに成熟した情報ネットワークを含む社会構造の変化があるように思料いたします。

豊かな環境の下に主体性を持たせる教育は、自分の言葉で堂々と物を言える若い世代を育て、組織の中に身を委ねる事なかれ主義の古い世代とは明らかに異なる気質を持っています。そして、それに拍車をかけるものとして、情報ネットワークの普遍化が挙げられます。一昔前であれば、絶対的な指導者の

下に統制されていた組織の中に閉じ込められていたものが、今ではネットワークを介して容易に情報を発信し、また拡散する情報をキャッチすることができるようになりました。自分の置かれた環境と外の世界との対比が容易になると共に、組織の中だけで事が収まらず、これまでうやむやにされてきた事実が炙り出されるようになった側面もあるでしょう。豊かな社会の下に、情報ネットワークが発達したことにより、常識の在り様に変化が生じていると言っても過言でないと思われます。多くの人の考えは、自分の経験が核になっているものであり、コミュニケーション能力が乏しく自分の思いばかりが先行すると、昔の型に嵌めようとして相互理解が抜け落ちることになります。大切なのは柔軟性と寛容性であり、社会背景に沿ったスタイルを常に模索していく必要があります。

さて、昨年の当業界を取り巻く環境の変化の大きなものとして、6月に成立し2019年4月施行の「働き方改革関連法」が挙げられます。建設業の長時間労働に関わる特徴として

- ① 予測の難しい自然環境下での現地生産
- ② 顧客からの仕様変更・工期短縮要求
- ③ 人員確保の困難性
- ④ 繁閑差の大きさ

が挙げられ、従来ともすれば「致し方ない」で済まされてきたのは過去の話となります。「人財こそが資産」である当業界がさらなる発展を目指すにあたり、この「働き方改革」をチャレンジすべき課題と位置付けて、業界一丸となって「働き甲斐のある職場作り」に取り組んでまいりましょう。